

# 大学再びオンライン

## 九州 コロナ拡大

### 「始まったばかりなのに」

九州各地で新型コロナウイルスの感染者が過去最高を更新し、福岡県で緊急事態宣言が発令される中、4月から対面での授業を増やしてきた大学では、対応の見直しを余儀なくされている。部活などを一時的に禁止し、授業をオンラインに戻す大学が多いが、できるだけ対面での教育機会を確保しようと工夫する大学もある。

(沢井友宏、江口武志)

オンライン授業に戻り、閑散としている西南学院大キヤンパス（13日、福岡市早良区で）—秋月正樹撮影

福岡県で宣言が発令された翌13日、福岡市早良区の西南学院大は閑散としていた。宣言発令に合わせて原則、オンライン授業に切り替えられたからだ。同大は「4月以降、学生の感染が目立ち始めており、感染を広げないための対応」と説明する。

人間科学部2年の〇〇さんは「本格的に学生生活が始まったと思ったところだったのに」とこぼす。昨年は入学直後に宣言が出て、オンライン学習になった。解除後は徐々に対面が増えたことで、教員や他の学生に気軽に質問ができ、学習も充実。2年になった4月からはほとんどが対面の授業だった。

〇〇さんは「やっとできた友達と一緒に学べないという悲しさ」と、感染を避けられるという安心感が入り交じっている。不安定な状況はいつまで続くのかと戸惑いを隠さない。

中村学園大（福岡市城南区）は、さらに厳しい感染対策を取っている。宣言期間中はオンライン授業に戻すだけでなく、学生の校内立ち入りを禁止した。同大の担当者は「対面授業や電車などの通学による感染リスクがあり、学生の安全を優先した」と話す。

オンライン授業は1回目の宣言が出た昨年4月以降、多くの大学で導入された。対面との割合は様々で、ほとんどオンラインという

大学もあった。こうした状況を受け、文部科学省は3月、学生の人間性を養うため、教員や学生と交流しやすい対面授業を感染対策を講じて行うよう各大学に求めた。

一方で、自治体の中には大学に原則的にオンライン授業を要請しているところもあり、日本私立大学団体連合会は今月6日、文科省に要望書を提出。「国と自治体の見解の違いによって、大学現場に混乱が生じている」などとして、要請を統一的な内容にするよう求めている。

「大型の楽器の演奏は自宅では難しく、大学に来ざるを得ない状況もある。密集を防いで感染者を出さないようにしたい」としている。

崇城大（熊本市）の芸術学部美術学科の洋画コースでは、所属学生を半分に分け、来校するかオンラインかを曜日ごとに決め、感染リスクを抑えている。

### QRコードで座席把握・授業分散 密回避

#### 対面維持へ知恵絞る

緊急事態宣言下でも、学生の学ぶ機会や生活の質が低下する懸念から、工夫して対面授業を維持する大学もある。

福岡工業大（福岡市東区）は各教室に換気用のファンを設置するだけでなく、QRコードを利用した感染拡大防止のシステムを導入。

対面授業の割合を7割にすることを目指している。学生は授業が始まる前、各教室に掲示されているQRコードをスマートフォンで読み込み、専用のウェブページから机に貼られた番号を入力。番号を基に、感染者が出た場合には濃厚接触者の可能性がある学生を大学側が把握し、保健所に伝える。

同大によると、対面授業を重視するのは、オンライン授業だった昨年の前期、学生の勉強量に差が出て、成績が二極化する傾向がみられたためだという。

同大の担当者は「オンライン授業でも、教員と学生が専用のウェブシステムを使って質疑や交流ができるようにしてきたが、対面の方が学習意欲を高め、成果も上がると考えている」と話している。

熊本県には16日から「まん延防止等重点措置」が適用される見通しとなったが、実技に重点を置く音大などでは、授業の実施方法などに知恵を絞っている。

平成音楽大（熊本県御船町）は、受講人数が多い授業では複数の教室に学生が分散し、対面とオンラインによる中継を併用している。同大の担当者は

感染拡大を防ぐため、QRコードを利用して学生の座席位置を把握している福岡工業大（13日、福岡市東区で）